

ふるさと歴史散歩 256

～松前史談会レポート～

太山寺、白石の鼻を訪ねる III

太山寺を後にし、松山市高浜町にある岬「白石の鼻」に向かう。ここには神秘的な花崗岩の巨石群がある。昔から自然に積み上げられたと伝えられてきたが、近年の調査により巨石群の配置や形状が太陽の動きと関わりがあることが明らかになった。

巨石群は、海側の「三ツ石」と陸側の「亀石」という二つの主要な巨石で構成され、春分・秋分には三ツ石の空洞に夕日が差し込み、冬至には亀石の空洞を通過することが確認されている。平成20(2008)年に篠澤邦彦氏によって発見されて以来、古代の天体観測や儀式に使われていた可能性があるとして、松山・白石の鼻巨石群振興会により調査が続けられている。

岸边には、白石龍神社が祭られており、神聖な空気が漂うパワースポットとしても注目されている。

この日は発見者の篠澤邦彦氏に現地にお越しいただき、春分・秋分や冬至にどのように夕日が差し込むのかを、当日の写真を示しながら詳しく説明していただいた。

参加者は、古代の神秘に触れ、胸の奥に静かなロマンが芽生えた様子だった。(徳香 記)



春分の頃三ツ石の隙間から漏れる夕日の光
(松山・白石の鼻巨石群振興会提供)



発見者の篠澤邦彦氏と一緒に記念撮影。松山・白石の鼻巨石群振興会では、春分・秋分、夏至・冬至の日に白石龍神社で夕日の鑑賞会を開いているとのこと

9月の歴史散歩は実施しません。

松前史談会(鷺野) ☎ 080-5666-5439

community learning center 公民館 だより

【開館時間】 9時～22時 【休館日】 12月28日～1月4日
◆東公民館 神崎 210 ☎ 984-1159 FAX 984-1457
◆西公民館 北黒田 966-2 ☎ 984-5313 FAX 984-5313
◆北公民館 昌農内 456-1 ☎ 984-7529 FAX 984-9398

西公民館 人形劇公演を実施しました

毎月順番に活動内容をお届け!



1. 子どもたちは舞台上に夢中
2. 大爆笑の人形劇

7月25日、西公民館に大洲人形劇サークル「へそ太郎」がやってきました。公演では、人形劇と腹話術が披露され、松前小学校の児童60人が観劇しました。

子どもたちは始めに、スカーフを使って音楽に合わせて踊りました。そしていよいよ観劇です。人形劇では「お芋ころころ」と「ほっかむり兵六」の2本が披露されました。子どもたちは、劇中のオチに大爆笑したり、ツッコミを入れたりして楽しく観劇しました。腹話術では、腹話術人形の「きょしくん」とのおしゃべりが面白く、終始笑いが絶えませんでした。また、操り人形も披露もされ、内容が盛りだくさんで、とても充実した楽しい時間になりました。

Let's Enjoy Books

ふるさと ライブラリー

◆開館時間 9時30分～19時
◆問い合わせ ☎ 985-4140 FAX 985-1386
◆9月の休館 30日(※)
ホームページはこちら▶

おはなし会
19日(土)11時～
文化センター
2階
ふるさと学習室

◆新着本 紹介

毎週新しい本を入荷し、随時、新着本コーナーに展示しています。貸し出し状況、予約状況はお問い合わせください。

▶おむごさんは殺人鬼
荒木あかね・著
文藝春秋



「この謎は、私を強くする」をテーマに、“人生の謎”に同志と共に立ち向かう、痛快なミステリー短編集。婚約者は連続殺人鬼?ただの浮気者?隠密調査の結末は。表題作など5編を収録

▶きょしくぶとく やかましく 寺地はるな・著
幻冬舎

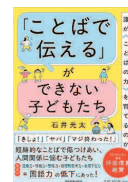


どこにでもある田舎町・白日町。ある夜校長先生のお座敷に死体が!それでも婦人部の面々は死体の隣で「秘密」を語るお茶会を始めるが…。読んで笑っていつの間にか大号泣の人間賛歌長編

▶裸足のゴースト 逢崎遊・著
中央公論新社



脚の故障で選手を引退した元長距離ランナーの柴田。保険営業で心身をすり減らす日々の中、ブラインドランナーの伴走者として、再び陸上競技の世界に舞い戻ること



▶「ことばで伝える」ができない子どもたち
石井光太・著
日本実業出版社

「きしょ!」「ヤバ」など、短絡的なことばで傷つけあい、人間関係を悩む子どもたち。日本の国語力低下に警鐘を鳴らした著者が、“ことばの力”を伸ばす方法を紹介する



▶英語力が憑く怪談・ゴシック文学の世界
小泉勇人・著
ベレ出版

ホラーで学習すれば「英語力が身に憑く!」メアリー・シェリーやブラム・ストーカーなど、19～20世紀のホラーの名作を通して英語を学ぶ、新感覚の学習書



▶パール・ギュント(ものがたりで読む!音楽)
ヘンリック・イブセン・著
小前亮・文 理論社

グリークの音楽とともに世界中で上演されている、イブセンの詩劇「パール・ギュント」をものがたりとして楽しめる1冊